

【港北区】令和 2 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 2 年 2 月 5 日（水） 10 時 00 分 ～ 11 時 20 分
場 所	港北区役所 4 階 特別会議室
出席者	<p>【出席議員：8 名】佐藤祐文議員（座長）、福地茂議員、 大山しょうじ議員、酒井誠議員、 白井正子議員、望月康弘議員、 大野トモイ議員、豊田有希議員</p> <p>【港北区：28 名】栗田区長、高嶋副区長、 高野福祉保健センター長、 武井福祉保健センター担当部長、 中田土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 2 年度個性ある区づくり推進費予算（案）について</p> <p>2 その他 報告事項</p> <p>(1) 第 4 期港北区地域福祉保健計画の策定について</p> <p>(2) 台風第 19 号の経験を踏まえた今後の取組について</p>
発言の 要 旨	<p>1 令和 2 年度個性ある区づくり推進費予算（案）について</p> <p>望月議員： 新規事業の風水害時の避難行動支援で設置する案内表示板について、指定緊急避難場所に 2 年でつけるということだが、何か所に設置するのか。</p> <p>橡木総務課長： 28 か所である。</p> <p>望月議員： 地域防災拠点と異なるのか。</p> <p>橡木総務課長： 一緒である。地震の時に避難所になる地域防災拠点は、風水害時も避難</p>

場所になる。

高嶋副区長：

地震と風水害で、開ける場所が違うということが分かりにくかった。風水害時、普段使っている地震の避難所に行った場合に、開設しているか否かを現地でも分かるよう明確にしたいと考えている。

望月議員：

せっかくだから、1年で全部設置できれば良いと思う。それから、新規事業のひとつき預かり事業について、利用料はいくらなのか。

横森こども支援課長：

こちらは拠点の場所で子育てサポートシステムを使うため、サポートシステムと同様、1時間800円となる。

望月議員：

保育士募集のポスターは、潜在保育士や区内在住の方の掘り起こしを目的にしているとのことだが、そういった方は相当数いるのか。

廣瀬学校連携・こども担当課長：

具体的な数値の把握は難しいが、相当数いると考えている。ポスターを目にさせていただき、きっかけにしたい。

白井議員：

保育士確保助言コンサルタントについて、具体的に専門コンサルタントというのは、こういった方なのか。

廣瀬学校連携・こども担当課長：

保育園を実際に経営されている方で、アドバイスもできる方に実際に入っていただき、保育士が集まりやすいPR方法や、効果的な広報などをアドバイスしていただこうと考えている。

栗田区長：

こども青少年局でも同様のコンサルタントを使っており、それを港北区

に特化して行う。

白井議員：

保育士が確保できないために、本来の定員からこれだけ定員を減らしているというような数値はあるか。

廣瀬学校連携・こども担当課長：

港北区では今年度、約10園、定員でいうと約50名程度、保育士が確保できないという理由で定員割れとなっている。

栗田区長：

民間園でも保育士が確保できないので、定員を少なくせざるを得ないところが結構ある。

酒井議員：

風水害時の避難行動支援で設置する案内表示板について、地震避難所として設置した看板と色は同じなのか。並べて設置するのか。

椽木総務課長：

今のところ、色は同じで考えており、並べて設置する。

酒井議員：

分かりにくいのではないか。分かりやすいほうが良いと思うので、少し考えていただきたい。

保育士職場見学ツアーについて、参加園への就職者数が3年続いてゼロとなっており、参加園自体も減っている。何か手を打ったほうがいいのかと思うが、どういう原因だと考えているのか。

廣瀬学校連携・こども担当課長：

今年度については、参加者数が減った理由として、まず台風と重なってしまったこと、事前の周知が学校の夏休みに入る直前でタイミングが悪かったことがある。また、他の市長村も同じようなことをやり始めてきているというのも一つの原因だと思っている。PRの仕方などを工夫してまた盛り上げられるように検討していきたい。

酒井議員：

ぜひ周知して一生懸命やっていただきたい。

大山議員：

保育士確保助言コンサルタントについて、報酬はいくらくらいか。

廣瀬学校連携・こども担当課長：

委託で実施する予定で、金額については、こども青少年局の額を参考に予算を組んでいるが、今後調整する。

大山議員：

ひとつき預かり事業で、お子さんの対象年齢と、区の補助があるならその根拠を教えてほしい。

横森こども支援課長：

対象年齢は、未就学の子供で0～6歳である。通常の一時的預かりと違うところは、事由は問わないことや当日利用可能という点である。この事業は、区局連携促進事業であり、予算の中身は子育てサポートシステムの提供会員の人件費になる。いつでも受け入れられる状況でなければ預かることができないので、その人件費の補てん分というかたちになる。

大山議員：

ウォーキングの関係だが、雨の日でも歩きやすいウォーキングマップというのは、場所も含めてイメージがあるのか。また、これは紙のマップのイメージなのか。

秋元福祉保健課長：

場所については未調整だが、想定としてはトレッサ、日吉のアピタ、日産スタジアムなどである。媒体としては紙で、フロアマップにウォーキングコースを書くイメージである。

大山議員：

ショッピングセンターの中を歩くというのは、他の都市でもやっている

のか。

秋元福祉保健課長：

他の都市でも、ショッピングセンターと共同してやっている例はある。

豊田議員：

樽町地域ケアプラザのサテライトについて、実際の利用状況がどうだったのか、樽町のコール数、問い合わせ状況はどのくらい緩和されたのか、というところをまず伺いたい。後ほどできればデータもいただければと思う。

秋元福祉保健課長：

データは後でお渡しする。つなしま相談室の相談の状況は、開始が7月ということで、7月から12月の数字になるが、合計で約1,800件の相談があり、前年の同期間と比べて約200件ほど増加している。また樽町地域ケアプラザ全体の相談件数に占める割合は約56%、前年の同期間よりも約5%増となっている。一方でつなしま交流室については、7月から12月までの間、地域ケアプラザの会議や地域の会議などで10件の利用があった。

豊田議員：

区民としてはサテライトではなく、独立した拠点として定着していくことが望ましいと思う。モデル事業ということでもあり、今後どうしていくのか。

秋元福祉保健課長：

つなしま交流室は、12月までは地域ケアプラザの事業や会議を中心に利用していたところだが、12月以降は、地域の自治会・町内会、地区社協などの福祉保健活動団体の交流のための利用も受け付けるようにしている。ただ、先ほど申し上げた通り利用が10件という状況なので、地域への周知が十分でないということは感じており、2月以降もあらためて地域への周知に努めていきたい。

栗田区長：

将来的には、地域包括ケアシステムの構築の拠点となるような機能はしっかりと築いていきたいと思っている。まずはしっかりと利用率を上げて、実績を積んでいく。

豊田議員：

とにかく踏み出していただいたということなので、ぜひ形にしていきたいし、まだ大豆戸のケアプラザの問題が残っているので、ぜひそちらにつなげるようにしていきたい。

豊田議員：

ひっとプランの改定に関しては、積極的にいろいろなモデル事業に取り組んでいくものにして欲しい。その中で、8050 問題の対応というのが局の予算でついている。実際港北区内でも散見される事例だと実感をしているので、港北区でモデルとして先駆的に取り組んでいくというようなことをやっていただきたいと思う。

武井福祉保健センター担当部長：

8050 問題の対応については、現在港北区では、それぞれ課題や年齢に応じ生活支援課、高齢・障害支援課、こども家庭支援課の 3 課で、ひきこもり相談の窓口があり、3 課で連携しつつ相談を受けている。30 年度は年間約 90 件のひきこもりの相談を受けており、40 歳以上の方が 20 件弱という状況である。

局では、令和 3 年度からの本格的な相談体制の強化ということを踏まえて、2 年度はモデル事業というようにやっていくという話になっている。港北区としても、今まで通りそれぞれの課で責任をもって対応するところもあるが、局の方でいろいろモデルをやっていくということも聞いているので、そういったものにできれば乗っかっていくという形で検証できればと思っている。

豊田議員：

ぜひよろしく願います。

佐藤議員：

これだけ様々な事業をやっていただいて、事業をどう見直されたのかと

というようなところも、示していただけたらと思う。また、成果の上がない事業については角度を変えてやるということも視野に入れながら、思い切った予算組みというものも、やっていただけたらと思う。

2 その他 報告事項

(1) 第4期港北区地域福祉保健計画の策定について

佐藤議員：

スケジュールに書いてある通り、策定に向けて様々な取組があるので、その間も情報提供は適宜お願いしたい。

(2) 台風第19号の経験を踏まえた今後の取組について

豊田議員：

鶴見川水系のハザードマップが次年度更新されるという話を聞いているが、周知・啓発のタイミングとしては非常にいいチャンスとなるのではないかと思う。スケジュールについて、どのように聞いているか。

佐藤危機管理・地域防災担当係長：

更新時期は確認していないが、現時点では、主に警戒レベルの伝え方等の面を見直して印刷していくということは区で把握している。

椽木総務課長：

ハザードマップは大変区民の方の関心が高いので、これを機会として区民の方にお伝えしていきたい。

栗田区長：

おっしゃるとおり、良いタイミングになると思うので、たくさんの方に配れるような予算組みも必要と思ったが、まだ情報があまり区の方におりてきていない。

豊田議員：

やはり鶴見川水系は一番の重要な区内の対策河川だろうから、ぜひ情報を積極的にとっていただきたい。

望月議員：

案内表示板の来年度設置のタイミングは、いつ頃を考えているか。

椽木総務課長：

学校とこれから工事の関係で調整中だが、大体夏くらいの時期までには設置していきたい。

望月議員：

台風シーズンに間に合うように、ぜひよろしく願います。

白井議員：

課題2「災害時要援護者等の避難行動の支援」状況①のところで、援護が必要と思われる避難者が56人とあるが、この56人の方が避難する時に、一人で避難されたのか、何らかの支援があったのか。

椽木総務課長：

ご家族の方などの支援があつて避難されていた。行政の支援は必要でなかった方がほとんどだった。

白井議員：

要配慮者について、施設での避難行動は計画も93%くらい出来ており対応しているということだが、自宅にいる災害時要援護者への避難行動計画の策定状況はどうなっているのか。

椽木総務課長：

個々の方の避難計画はまだ手がついていない状態で、各ご家庭で早めの避難等考えていただくよう案内している。今のところ、重篤な方の個別の支援をどうするか、これから計画していく段階にある。

栗田区長：

マイタイムライン（区民一人ひとりの避難行動計画）のようなものを、推奨していく。特に援護が必要な方たちには、民生委員さんたちのお力もお借りし、啓発に力を入れていきたい。

高嶋副区長：

緊急時情報伝達システムに積極的に対応していただければ、直接情報がいくので、勧奨していきたい。

酒井議員：

台風 19 号の時、区職員が避難場所の鍵を開けて準備したが、その際防災拠点の中のことを知っている人が誰もいないパターンがあることが浮き彫りになってしまった。拠点によって温度差があると思うが、風水害の時でも、自治会・町内会でやっていいという会長たちもいらっしゃる。向こうも待っているので、熱いうちに、対応していただきたいと思う。その辺をしっかりお願いしたい。

栗田区長：

地域との協力体制づくりをこれからしっかりやっていこうと思う。

大山議員：

風水害の冊子については、できるだけ台風が来る前に仕上げてほしい。冊子の中身については、避難場所と避難所の違いなど、以前からわかりにくいといわれていた内容を、どう表現し周知していくのか。

椽木総務課長：

震災時と違って、洪水浸水想定区内の低地の避難場所は、まず開かないということがある。また、河川で避難勧告が出る場合、みなさん地震のイメージがあって、全部に出るのではないかと思われているが、区全域に同時に出るというわけではなくエリアごとにリスクが違う。そこをうまく伝えていかななくてはいけない、というのが課題だと考えている。

大山議員：

台風 19 号の際、区役所の方から、任意避難場所と指定緊急避難場所を開いたという通知が会長たちに送信され、それを受けてどうすればいいかわからないという声があった。風水害時の対応について自治会・町内会と協議していると思うが、どういう状況か。

	<p>椽木総務課長：</p> <p>今回そのような通知を送ったのは、お問い合わせがあった時のために情報をお伝えしておくという趣旨だったが、説明が足りなかった部分があったので、今後そこは注意してやりたいと思う。こういった風水害情報はなるべく詳しく正しい情報をお伝えして、問い合わせにお答えいただければ有難いので、会長たちにはそのようにお願いしていきたい。</p> <p>大山議員：</p> <p>今回のことを踏まえて良いものを作っていたらと思う。よろしく願います。</p> <p>佐藤議員：</p> <p>先に話にでていた掲示板だが、同じ色で作成したら見ないと思う。前あったのがもう一枚ついたくらいにしか思われない。そういう工夫はしてほしい。</p>
<p>備 考</p>	<p>(資料提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 港北区犯罪発生状況 ・ 令和元年港北区内の火災・救急状況について